

予報期間 1月18日から1月24日まで

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 20日は、低気圧が日本の東へ進み、日本付近は冬型の気圧配置となる。
- 21日から22日にかけては、日本付近に強い寒気が流れ込み、冬型の気圧配置が強まる。
- 23日は、冬型の気圧配置は緩み、気圧の谷が日本海から北日本付近へ進む。
- 24日は、日本付近は再び冬型の気圧配置が強まる。

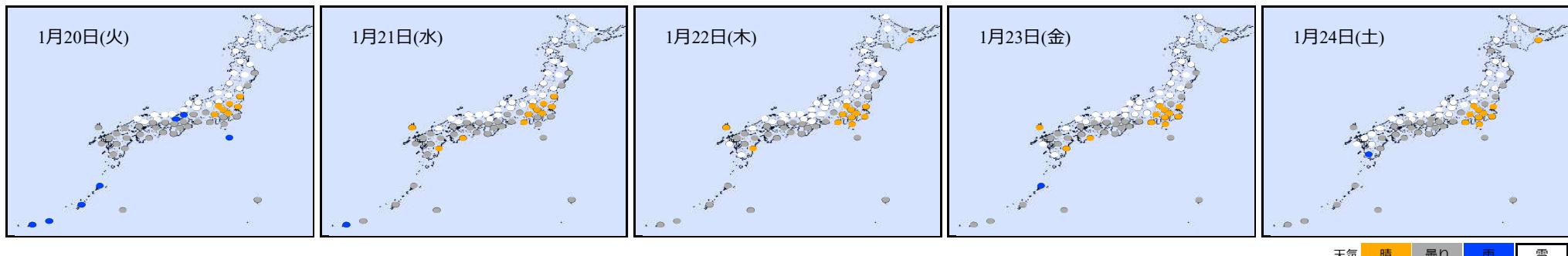
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 20日は、北日本付近では気圧の傾きが急となるため荒れた天気となり、気圧の傾きの程度によっては大荒れとなるおそれがある。
- 21日以降は、強い寒気が南下するため北日本から西日本にかけての日本海側を中心に大雪となるおそれがあり、寒気の程度によっては警報級の大雪となる可能性がある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

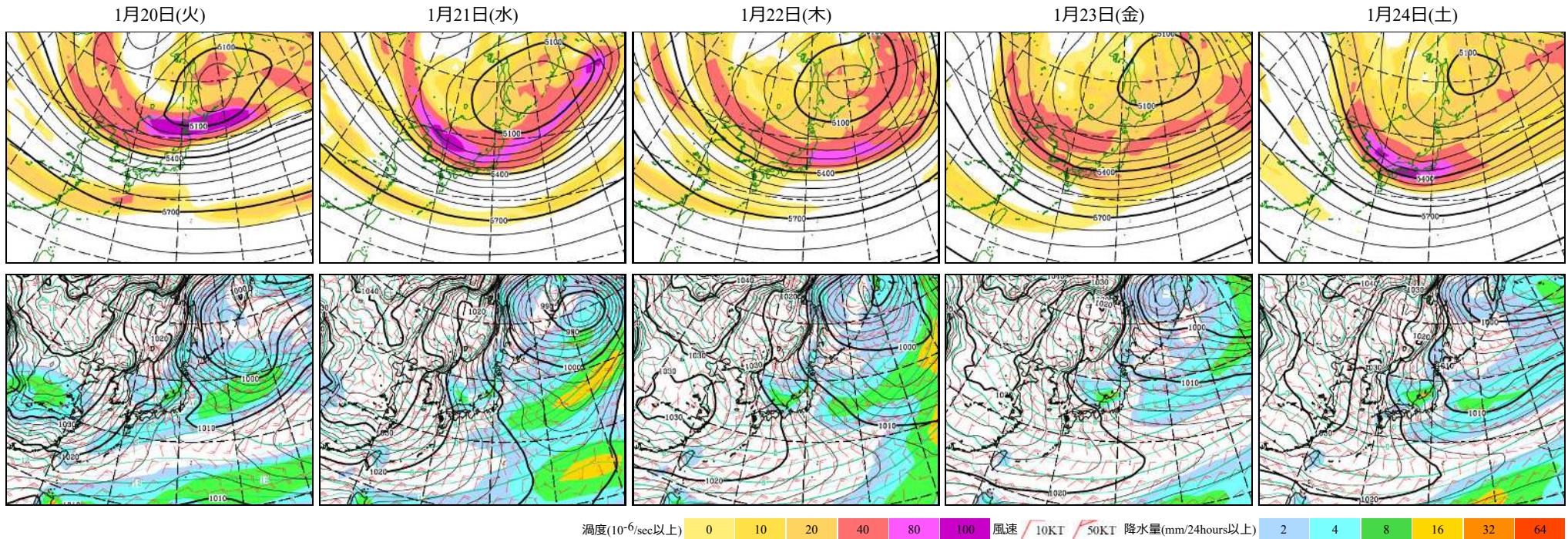
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

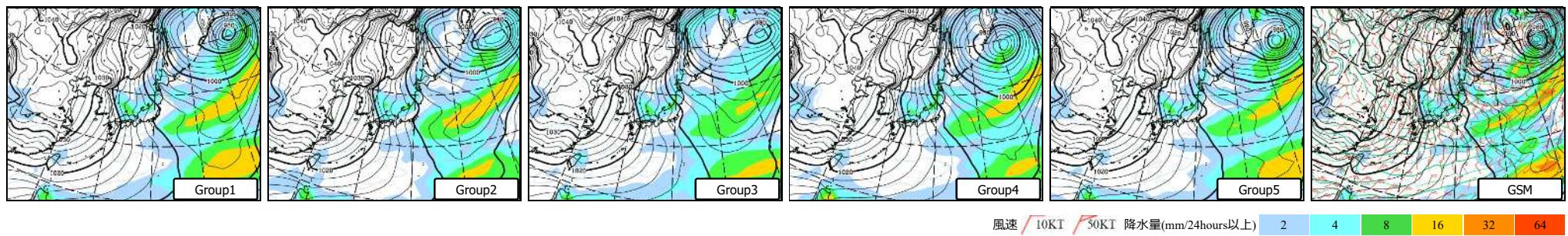


- 北日本と東日本から西日本にかけての日本海側は、曇りや雪または雨の降る日が多い。
- 東日本から西日本にかけての太平洋側は、晴れや曇りの日が多い。
- 沖縄・奄美は、雲が広がりやすく、雨の降る所がある。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆1月21日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料（ENS）は、総観場の初期値変わりは小さく、降水確率ガイダンスの初期値変わりも小さい。
- 各モデルとも、21日からは日本付近に強い寒気が流れ込み、冬型の気圧配置が強まる予想はおおむね揃っている。23日は日本海が気圧の谷となり、一時的に気圧の傾きが緩むが、24日は再び冬型の気圧配置が強まる予想となっている。寒気の強さは、850hPa-12°Cが北陸付近、-9°Cは本州南岸付近という予想でモデル間の差は比較的小さい。
- スプレッドは比較的小さく、各特定高度線のばらつきも小さい。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。

今日から明後日までの解説は「短期予報解説資料」を参照ください。